



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

風の匂い 冬の匂い…季節を感じて

先週、ヒューマン・タイムの人権学習で京都市視覚障害者支援センターより松永信也さんに来ていただきました。松永さんのエッセイ集「風になってください」より「白杖で落葉のコンツェルト」を紹介させていただきます。

白杖で落葉のコンツェルト

バス停まで歩く道のあちこちで落葉が杖先にあたる。カサカサ、ガサガサ。
ベンチに腰を掛けてバスを待つ間、北風の音が聞こえる。
路面を枯れ葉がカラカラコロコロ駆け抜けていく。フッと空を見上げる。
透き通るような、吸い込まれそうなブルースカイ。勿論、画像はない。

でも、人間の脳は有り難いものである。
想像することを知っている。
創造することができる。

深呼吸をして、それから風の匂いをかいでみる。
確かに季節によって、空気には匂いがある。
厳密には自信はないが、とりわけ冬の匂いはよくわかる。
空気の匂い、花の香り、店先の商品の匂い、
すべてが今の僕には大切な情報源だ。
勿論、音も。
バス待ちの間にちょっとの時間の落葉のコンツェルト。
ありがとう、落葉達。
バスのエンジンの音が近づいてきた。
さあ、今日も出発だ。



年の瀬も押し迫り、師走の半ばを過ぎようとしています。寒くて、気忙しくて、ゆっくり季節を感じている余裕もないかもしれません。また、3年生は今週末から三者懇談も始まり、進路選択に向けて大詰めを迎えます。

そんな時こそ、少しでも季節の移ろいを感じてみてはどうでしょうか。深呼吸をして、風を感じて、青空を見上げるだけでも良い気分転換になるかもしれません。

社会は意外と優しい人が多いものです

「人間に生まれて良かったとすることがあります。それは、目が見えなくても生きていけるのは、人間だけだからです。」「道を歩いている時に「手伝ってください」と声をかけたら、誰かが「手伝いましょうか」と返してくれます。」

松永さんは、こんな話も生徒たちにしてくれていました。そして、洛風の生徒の中で、今までに目の不自由な人を手伝ったことのある人はと松永さんが尋ねられた時に、10人以上の生徒が拍手して答えていました。洛風の生徒は優しい気持ちを持っているんだ、勇気があるんだとほめていただきました。

また、「かわいそう」と思う気持ちは悪くない、漢字では「可愛想」英語では「I can think with love…愛を持って想うことができる」と教えていただきました。目が見えないという厳しい現実にも生きながらも、温かな心を持って生きていくことの大切さをいっぱい伝えていただきました。

次回「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」は1月17日(水)です。